

第2回三重県教育改革推進会議（9月5日）の意見概要

1 県立高等学校活性化計画（仮称）の構成や基本的な考え方について

- 安全で安心できる学びがベースである。「基本的な考え方」において安全・安心について記述する必要があるのではないか。
- 子どもたちのコミュニケーション能力を向上することが重要である。生き抜いていく力の一つとして位置づけてはどうか。

2 県立高等学校の活性化を図るための取組について

- アクティブ・ラーニングを推進していくためには、チームによる教育を進めていくことやどのように評価するかということ併せて考えていくことが重要である。
- 地方創生を考えたとき、理数系人材の育成に加えて、今後の地域リーダーとなるべき人材の育成も重要である。
- トップクラスの育成も大事であるが、中間層の子どもたちの将来が見えるようにしていくことも大切である。
- 特別支援教育については、小中学校との連携に関する記述を入れるべきである。
- 産業界の一番の悩みは事業継承である。起業することも大事であるが、今ある事業を継続していくことや伝統産業を守っていくことも大切である。
- 小規模校に特色ある学科を設けるなど専門性を高めて、地域の産業と結びつけていくことが重要である。
- 小学校のコミュニティ・スクールでの経験を踏まえると、高校においても地域と共にある学校づくりを進めていくことが必要である。
- 高校と地域が相互に貢献し合う関係を構築することが重要である。

3 県立高等学校の規模や配置の考え方について

- 2学級の学校については、原則として分校とするという表現では、すべての学校が残ることを保証しているように感じるがそれで良いのか。
- 高校があつてよかつたと地域の人が思える取組を充実していくことが必要である。高校がなくなると過疎化が進むので対策が必要である。
- 小規模校の活性化を考えると、「地域と共にある学校」、「防災拠点としての学校」、「学校を核にした地域づくり」という視点が重要である。
- 小規模校を維持するためには一定の予算がいる。小規模校を維持する予算を他の教育課題の解決に振り向けるという選択肢もある。学校規模と財政効率について記述を検討してはどうか。